

仙台市議会報告

2020年春号
〈令和2年第1回定例会報告〉

野田ゆずる 議会レポート

■発行／仙台市議会議員 野田ゆずる 〒981-3121 仙台市泉区上谷刈3丁目7-29-D103 Tel&Fax 022(739)9630

■ご意見・ご要望がありましたら上記までお気軽にお寄せください。

今回の議会レポートは、令和2年第1回定例会の報告をさせていただきます。今定例会では、総額5410億8800万円の令和2年度当初予算、68億9700万円を減額する令和元年度補正予算など議案55件を可決いたしました。

懸案としていた「宿泊税」に関しては、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、宿泊事業者への影響が大きく、県でも条例案を取り下げることとなったため、市でも取り下げることとなりました。

今回のレポートは、一般質問で登壇した際の質問と答弁の要点、会派自由民主党代表質疑の主な質疑を記載させていただきました。是非、一読いただき皆様の仙台市政へのご意見を頂戴したいと考えております。



仙台市議会議員 野田 譲

令和2年第1回定例会 野田ゆずる一般質問より (抜粋)

人口減少を見据えた取り組みについて

野田 人口減少に突入し手をこまねいては都市の活力が失われてしまう。新たな施策に取り組まなければならず、東北のダム機能を有する施策を展開しなければならない。

ハード面のインフラ整備と、ソフト面における、経済や福祉、教育文化における魅力の創出を同時に追求していく必要がある。市長の決意は如何か。

答弁 東北の中核都市として都心に求められる機能のほか、通りやエリアごとの方針など、都心全体のまちづくりの方向性について、総合計画におけるまちづくりの理念や目指す都市の姿を踏まえて、都市計画マスタープランの主要な方針の一つとしてお示しをしまいたいと考えております。

地下鉄東西線、南北線の沿線整備について

野田 地下鉄沿線地域の活性化はますます不可欠だ。地下鉄駅周辺において大胆な都市計画の変更も視野に入れ、用途地域の変更により、さらなる土地の高度化を進めれば、さらに人々が集まり、街に賑わいが生まれ、税収が増え、さらなる公共投資が出来る好循環を生み出すことに繋がるのではないかと、如何か。

答弁 東西線においては、駅周辺における新たな開発の誘導や土地利用の転換を進めており、都市計画提案制度の活用などによる卸町駅や六丁の目駅周辺の都市計画の見直しも行ってきた。

一方、南北線においては、開業後30年以上が経過し、成熟した市街地が形成されているが、さらなる機能集約や更新が必要と考えている。

昨年度から各駅周辺の現状分析を行っており、この結果を活用しながら、東西線沿線の取り組みを一層推進するとともに、泉中央を初めとする南北線沿線においても、必要に応じて都市計画の見直しも検討しながら、それぞれの地域に求められる機能の充実強化を図り、沿線地域の活性化に取り組んでいきたい。



●地下鉄南北線 泉中央駅前



●地下鉄東西線 荒井駅前

仙台駅周辺バスターミナル集約について

野田 仙台駅西口・東口周辺に分散し、分かりづらい高速バスターミナルを、どのように整備し、集約する計画を持っているのか、お示し下さい。

答弁 仙台駅は、これまで東西自由通路の整備やバスターミナルの拡張など、利便性向上に向けて環境整備を進めてきた。仙台駅を発着する高速バスの需要は増加しており、分散しているバス停の集約化による乗り継ぎや利便性向上などが課題になっている。



●東北の玄関口となる仙台駅西口

仙台駅周辺において国のバスタプロジェクトによる検討が開始されたところで、バスタ新宿の事例を見ても、バス停が集約され利便性が大きく向上するとともに、周辺道路の渋滞が緩和されるなど、事業効果が期待できる。

本市としては、国と連携を図り、仙台駅周辺の交通結節機能の強化を進め、仙台駅周辺が単なる通過点となることなく、国内外からの来訪者の方々に都心部や市内各所を回遊していただき、都心全体のにぎわい向上につながるよう取り組んでいく。

野田 ヨドバシホールディングスが、仙台駅東口に整備しようとしている施設は、国土交通省が進めようとしているバスタプロジェクトと関連する事業なのか、また、仙台市も関連した事業なのか如何か。

答弁 国で計画をしているバスタプロジェクトは、仙台駅周辺に点在している高速バスのほとんどを指し、全部に近い形の台数を集約するという、大規模なバスターミナルの計画だ。両者の結びつきは現時点で特にあるということではない。

仙台駅前周辺の整備について

野田 仙台駅中心の再開発は東北の玄関口である仙台の顔というべきものである。東北のダム機能を有する仙台市の開発に対して市長の本気度が問われている。その決意をお聞かせ下さい。

答弁 本市が進めている都心の再構築に当たっては、さまざまな分野の取り組みを連動させながら展開していくことが重要であり、庁内はもとより官民が連携して取り組んでいくこと、このことが必要だ。

東北の中核都市として都心に求められる機能のほか、通りやエリアごとの方針など、都心全体のまちづくりの方向性について、総合計画におけるまちづくりの理念や目指す都市の姿を踏まえて、都市計画マスタープランの主要な方針の一つとしてお示しをしていきたいと考えている。

仙台駅エリア ～東北の発展を牽引する仙台の顔～

東北の中核となる商業・業務機能が集積し、東北の玄関口として広域的な交流を支えるエリア



●再開発が期待される仙台駅西口青葉通り

仙台東道路と都市計画道路について

野田 村井知事が国土交通省に仙台東道路の要望を行った際に、市の担当者も同席したとの記事があった。どのような内容だったのかをお示しください。

また、東道路に関して仙台市はどのように関わっているのか。

答弁 要望の概要は、国に対して、宮城県と共同で仙台東道路の計画段階評価を進めるための調査を促進することに加え、現在事業中の国道4号バイパスの宮城野区燕沢から鶴ヶ谷までの区間における拡幅の早期完成や、箆ノ瀬交差点や鹿の又交差点間の立体化の早期事業着手など、仙台東部地区の道路網の強化等について要望をした。

仙台東道路については、仙台都市圏自動車専用道路ネットワークの一部として、仙台市の中心部と沿岸部を結ぶ道路であり、物流等の円滑化を図り広域防災力を強化し、主要な拠点と接続し、速達性や定時性を向上させる効果が期待できると考えている。

また、仙台東道路のルートあるいは構造については今後検討され、これまで進めてきた仙台市のまちづくりと整合が図られた形態が前提となり、引き続き、宮城県と連携しながら、交通ネットワークの形成に向け仙台東道路の事業促進が図られるよう取り組んでいきたい。



●仙台東道路に関するアンケート図

宮城県民会館跡地に関する宮城県の回答について

野田 昨年第3回の定例会において、郡市長は知事と早急に話をする機会を設け、担当部局間で様々な情報交換を行う、と答弁をした。しかし4ヶ月が経過しても何の情報提供もないまま、1月の調整会議で知事と会談したとの報道があった。その会議も含めどのようなやりとりがあったのか、宮城県からの回答と本市の要望内容、市長の認識は如何か。

答弁 県民会館は、長年にわたって市民、県民の皆様方に愛され親しまれ、年間40万人を超える利用者の方々、定禅寺

通など周辺エリアに大きな賑わいと、経済効果をもたらしてきた。

昨年11月に知事とお会いをし、県民会館が果たしてきた役割を十分に踏まえた利活用の方向性を早期に示すことが必要である旨を申し上げた。

先月31日の会議の場において、知事から、この跡地の利活用の検討に当たっては、定禅寺通のにぎわいのために仙台市と協力していきたいと明確なお考えが示され、この場所にふさわしい利活用の方策について知事と鋭意協議をしていきたい。

令和2年第1回定例会 自由民主党代表質疑より (抜粋)**市政運営に臨む気構えについて**

質問 郡市長就任直後の定例会においての印象と、2年を経た今日では「君子危うきに近づかず」という印象を強く感じる。取り組むべき市長の積極性がどうしても感じ取れない。市長の心境は変わってしまったのか所見を伺う。

答弁 「多様な力で未来を創る、新たな杜の都への挑戦」という主題を掲げ、今後直面するであろう、様々な課題に対して、両副市長と十分に意思疎通を続けるとともに、全庁職員一丸となってチャレンジを続けながら、希望ある仙台の未来へとつなげていきたい。

新型コロナウイルスについて

質問 市民の不安を解消できるような適時適切な対応が不可欠だ。当局はどのような認識を持ち、また、もし市内での感染が確認された場合に備え、国からの指示を待つ受け身の姿勢ではなく、不安を抱えた市民により多くの情報提供や発症防止策について発信すべきだ、如何か。

答弁 市民の皆様適切な感染予防対策や冷静な対応をお取りいただくために、正確かつ最新の情報を速やかにお届けすることが肝要である。万一の事態が発生した場合にも迅速に対応できるよう、医療体制の整備に注力していく。109万市民の皆様のお安心・安全をお守りすることが最大の使命であることを肝に銘じ、引き続き全庁一丸となって対応していく。

新型コロナウイルス感染にご注意ください。

※ご自身の症状に不安がある場合などは下記窓口にご相談ください。

仙台市・宮城県の電話相談窓口(コールセンター)

☎022-211-3883 24時間対応

質問 市内医療機関の対応と、本市の衛生研究所の機能はどうなっているのか。

答弁 関係機関と密接に連携を図りながら適切な医療体制の確保に力を注いでいきたい。新型コロナウイルス疑い患者発生時には24時間対応で検査できる体制を構築している。

本市と県にまたがる課題について

質問 両者の連携がこれほど求められている事はこれまでなかった。まず本市音楽ホールについて、立地場所は決定されたのか。報告書が出されてから1年近くが経過した。この間、具体的にどのような検討をされてきたのか。

音楽ホールは多くの市民が待ち望んでいたものだ。市長が決断を下すタイミングではないか。いつまでに、どこに立地決定するつもりなのか、如何か。

答弁 早期に立地場所を判断し、新年度に基本構想策定に取り組んでいく。生の音源に対する音響を重視した市の音楽ホールに対し、新県民会館は大音量のポップスなどを想定した、総合エンターテイメント施設という方向性の違いがあり、それぞれの施設が相乗効果を発揮できるよう検討を整理し、仙台の街に新しい魅力をもたらす音楽ホールの実現に向け、着実に歩を進めていきたい。

仙台市音楽ホールの立地候補地



子育て支援について

質問 市民アンケートでは7分野のうち6分野が3割に届かない低評価となった。中でも、子育て支援や教育分野で、いじめや児童虐待等への対応が不十分と判断された。市長は新年度こそ、これらの評価を覆す努力をすべきだ、如何か。

答弁 新年度、新たないじめ相談支援窓口の新設や、児童相談所の機能強化を図る。さらなる子供の安心・安全の確保に取り組み、より多くの子育て世帯に「子育てするなら仙台」と思ってもらえるよう全力で取り組んでいく。

質問 新年度、子ども医療費助成の拡充経費が計上されている。どういったことを目指し拡大するのか。対象者拡大は、どの程度を想定し、開始時期はいつ頃になるのか伺う。



答弁 今回の緩和は2億9千万円程度の増額となる。およそ9割の子供がこの支援の対象となり、令和3年10月より所得制限額を、年額90万円引き上げ、新たに9800人程度の子供たちが加わる。

教育施策の推進について

質問 各学校では、いじめを早期に発見するため、全市一斉のいじめ実態把握調査を年1回、独自のものは実情に応じて実施している。把握した事案についてどのような対応をとっているのか。

答弁 聞き取りを行い、事実関係を校内で共有し、対応を確認した上で保護者連絡や関係する児童生徒への支援や指導を行ない、定期的に確認し必要に応じて学校訪問をするなど具体的な助言指導を行っている。

質問 いじめ防止を市政の重要課題と位置付けている中で、いじめの認知件数は減少せず、昨年度は14,900件となっている。この状況をどのように捉え、対策をどのように評価しているのか。

答弁 ここ数年14,000件台で推移していることは、学校が積極的にいじめを認知してきた結果である。引き続き、すべての教職員が実践的な内容を学ぶ環境を整える必要がある。学校現場に、施策を浸透させ、効果的で実効性のある取り組みを進めていく。

声をお聞かせください

仙台市や地域に思う事または、行政や国に対して思う事など皆様のお考えをお聞かせください。下記のハガキにお書きいただき、お近くのポストにご投函お願い致します。

郵便はがき

9 8 1 - 3 1 9 0

(受取人) 泉区上谷刈3丁目7-29 D棟103

仙台市議会議員(泉区) 野田 ゆずる 行

料金受取人払郵便

泉 局 承 認

36

差し出し有効期間 2021年4月 30日まで

切手不要

あなたの声をお聞かせくださいお聞かせください



Postcard form with fields for name, address, phone number, and a message box. Includes a note about data usage at the bottom.

本市の財政運営について

質問 令和2年度予算は、財源対策前収支差は令和元年に比べ28億円も悪化している。市長は行政サービスを途絶えることなく安定的に提供していく責務がある。中長期的な視点を持った財政運営を目指すべきである。その決意を伺う。

答弁 新年度予算は、本市の未来を担う若い力を育むための施策や、積極的な税源涵養につなげる都市活力の創出に向けた予算を重点配分した。復興の次のステージに向け希望ある未来を展望した取り組みに全力を傾注したいと考えている。

【その他の質疑項目】●宿泊税 ●東京オリンピック・パラリンピック ●健康福祉局関連 ●若者の視点を施策に生かすまちづくり ●都心再構築プロジェクト 等、多岐にわたり質疑が行われました。